

「学びの教室」

駒本小学校特別支援教室直通電話 3827-5575 (ファクシミリ兼用)

通信

お手伝い ふたたび

梅雨に入り、雨天や曇天の日が続いています。夏休み開始までは1か月を切っており、今学期の特別支援教室での指導は、残り数回となりました。さて、数年前の教室通信でも特集しましたが、今号では、ご家庭で子ども達の発達を促すことができるものの一つと言われているお手伝いについて、再び特集を組みました。

夏休みは、多くのお子さんにとって家庭で過ごす時間が長くなるかと思います。習い事に通ったり育成室を利用したりする子にとっても、生活の中で少しゆとりができる(保護者の方々からは「逆に忙しいよ!」との声も漏れ聞こえてきそうですが…)のではないのでしょうか。

さて、お手伝いにはどのような効果があるのか、簡単に分析してみましょう。

①能力の向上

あるご家庭では、個人面談をきっかけにして、“無洗米を使ってご飯を炊く”というお手伝いをお願いするようになったそうです。無洗米なのでお米を研ぐ必要はありませんが、カップで正しく計量する、炊飯器の内釜の所定のラインまで正確に水を入れる、などの細かい作業がそれなりに要求されます。炊飯すること自体を忘れて大変なことになりますし、いい加減に計量してしまうと、ご飯が上手に炊けずに、家族みんなが困るわけですから、担当することになったおさんは、それはそれは、慎重にやっているそうです。毎日行うことで、様々な能力の向上が期待できます。



②役割意識

お手伝いをするすることで、家庭(家族)の中での本人の役割意識が育ちます。「自分の役割としてこれをきちんとやるんだ。」という意識は、集団生活でとても大切です。学校生活での当番活動などの充実にもつながると考えられます。

③自己有用感

②の役割意識に関連していますが、お手伝いをしたことで家族からほめられ、「ぼく／わたしは、家族みんなの役に立っているんだ!」という自己有用感が高まります。自己有用感が高まると、周りの人のために役立ちたいという貢献意欲が高まることや感謝の気持ちの芽生えにつながる、という考え方もあるようです。発達特性の有無に関係なく大切なことですね。

なお、以前の特集の際も述べましたが、お手伝いは、日々の生活の中から子どもが家族のために行えるものを選択すると、大人と子どもの双方にとって負担が少なくなります。つまり「無理のない範囲のお手伝い」がキーワードになります。加えて、「ゴミを捨てる」「片付けをする」などの形に残りにくいお手伝いよりも、「食器を食卓に並べる」「朝ご飯の食パンを焼く」などの形に残るお手伝いの方が、子ども自身にとっては達成感が大きく効果があるようです。

<保護者の皆様へ 夏季個人面談について>

7月14日(木)より、夏季個人面談を行います。利用児童の全家庭が対象です。後日配布します「個人面談のお知らせ」をご覧になった上で、締め切り日までに日程調査票をご提出ください。

<6月下旬と7月上旬のコミュニケーションタイムの主な学習予定>

「アハ!ショット」

電子黒板に投影された2枚一組の写真を見比べて違うところを探す、いわゆる「間違い(違うところ)探し」です。グループ(小集団)の実態に応じて、手がかりを減らす、解答済みの部分を明示しないなどの認知的な負荷を調整することで視覚的な記憶のトレーニングにつなげます。また、2枚の写真の異なる箇所は複数あるため、注意の持続を向上させることが必要となります。



●ねらい

- ・視覚的短期記憶を向上させる。
- ・注意を持続させる力を養う。

●学習指導要領「自立活動」

4 環境の把握

- (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること
- (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること

「マイクロアドベンチャー」

様々な事物の画像の一部分をプロジェクターで拡大投映します。部分から全体を推測し、何の画像か当てるゲームです。子ども達に人気がある学習活動の一つです。



●ねらい

- ・解答のルールを遵守する習慣を形成する。
- ・自信がない場合でも、できるだけ推測して答えようとする。

●学習指導要領「自立活動」

3 人間関係の形成

- (3) 自己の理解と行動の調整に関すること (4) 集団への参加の基礎に関すること

4 環境の把握

- (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること

※他にも「MAX20クイズ」などに取り組む予定です。

以上